

令和2年度 第2回三大水門景観検討部会 議事概要

日 時 : 令和2年11月4日（水）18:04～20:14

場 所 : 大阪府庁別館7階 都市計画室分室

出席者 : 委員)久保田委員・山上委員・重山委員・杉村委員・武田委員 計5名

まとめ

- (1) 第1回三大水門景観検討部会を踏まえた論点整理
 - ・意見なし
 - (2) 改築する三大水門の景観検討方針について
 - ・本日頂いた意見をもとに、資料2のP3の内容を修正し、各委員の確認をしよう
えで、「改築する三大水門の景観検討方針について」の答申とする。
 - (3) 木津川水門の景観設計に関する住民意見募集結果について
 - ・安治川のアイデアコンペなどもあるので、幅広い年齢層やより多く住民の方々の
意見・アイデアを募る方法については、今後検討していく必要がある。
 - (4) 木津川水門の景観設計において配慮すべき事項と進め方について
 - ・本日頂いた意見をもとに、資料4のP29、P30の内容を修正し、各委員の確認を
しようえで、「木津川水門の景観設計において配慮すべき事項と進め方につ
いて」の答申とする。
- ⇒次回以降、答申を踏まえた木津川水門の景観設計の内容、安治川水門のコンペ方
式について検討を進めていく。

主な確認事項、委員意見等

- (1) 第1回三大水門景観検討部会を踏まえた論点整理
 - ・意見なし
- (2) 改築する三大水門の景観検討方針について
 - ・景観形成の目標の内容で、「水都大阪など、まちの賑わいについて配慮する」という文言があるが、「水都大阪」という単語だけだと、ただ単に水の都大阪と言っているだけととれるので、「水都大阪の再生に資する取組」のことだとわかるような表現にしてはどうか。
 - ・また、景観方針についても「水都大阪」という単語が使用されているので、同様に表現を修正してはどうか。
 - ・資料2のP3の内容を修正したうえで、「改築する三大水門の景観検討方針について」の答申とする。
- (3) 木津川水門の景観設計に関する住民意見募集結果について
 - ・アンケートの結果から、予想以上に機能性を心配性している印象。
 - ・水門が防災の役割を果たしているときのイメージや、門柱等をスリム化しても基礎杭があって安全はきちんと確保できているということを住民の方に伝えることで、ここで検討しているデザインが非常に有効であると納得してもらえるようアピールしたほうが良い。
 - ・今回いただいた意見はどれも貴重な意見だとは思いますが、40件というのはあまりにも少なく、住民の総意だとか考えを把握したというレベルには至らないという印象。
 - ・今回のアンケートはこれで良いが、安治川のアイデアコンペなどもあるので、流域の住民の方々に、いかにして情報を伝えるか、いかにしてアイデアを募るかという方法については、検討していく必要がある。
 - ・ホームページに掲載するだけではなく、プッシュ型の情報発信をするような工夫が必要。
 - ・また、区役所等での閲覧だと地域の高齢の方の意見が中心になるように思うので、できれば若い世代からの意見も集約できるような工夫もあると良い。
- (4) 木津川水門の景観設計において配慮すべき事項について
 - ・景観のことだけを考えるとダブルゲートのほうが良いが、検討の結果シングルゲートのほうが良いという結論なのでそれで良い。
 - ・管理橋については安全性を考慮した結果、前回よりボリュームが増える傾向となっているが、I桁構造以外の構造も今後検討してほしい。
 - ・巻上機室の屋根形状は経済的な理由から陸屋根が良いという判断は妥当だが、検討のプロセスとして、全部が同じ方向に片流れした屋根を検討するのではなく、スカイラインを考えた際、最も妥当と思われる両側の巻上機室が片流れ屋根で、中央の巻上機室は陸屋根で中央が低くなるまたは高くなる形状を案として追加したほうが良い。
 - ・中央の階段については、らせん階段も可能性として考えられるのではないかと。
 - ・コンクリートの表面仕上げは経済的な理由から実施しないという判断は妥当と考えられるが、門柱より基壇の堰柱部に仕上げを行うことで、下部の色合いが濃く、上に行くほど薄くなるほうが景観のバランスとしては良いので、検討のプロセスとして追加したほうが良い。

- また、今回の水門は都心部にあり、周りは全て人工的な環境であるので、打ちっぱなしの面でも周辺の環境とは調和するように思う。
- 防舷材の配置や材質なども検討の余地があれば検討してもらいたい。
- 扉体自体にも磨きやたたきなどの表面処理ができるのであれば、アーチの形状を影のように描くなど工夫することで、アーチ型の水門をイメージとして継承することも工夫として考えられる。
- 現在の水門の特徴的なところとしては色彩が緑というのもあるので、緑の要素を例えば階段などに入れてあげるなどすることでイメージの継承をする方法もある。
- 周辺との調和を考えると、主役は川になるが、現在のイメージパースの川の色が実際よりもすごく綺麗な感じで描かれているので、実際に合わせたパース図もあるとよい。
- また、安治川水門、尻無川水門では夜間のナイトクルーズみたいなものもあり、将来を想定するのであれば、ライトアップしているような夜間景観も考えても良いのではないか。
- 水門が安全・安心を守ることに加えて、防災教育にも使われると考えると、水門そのものを見学することも重要だし、横にある三軒家水門も違った形式の水門として同時に見学するのも学びの効果としては良いのではないか。
- 現水門を継承する話で、全然無理かもしれないが今の扉体をどこかに置くことはできるのか、一度検討してみてもどうか。ものが残ればそれが一番良い。
- P29の設計における基本的な考え方の2行目について、「考えられることから」その周辺の景観と馴染んだデザインとすべきとしたほうが、文意として明確になる。
- P30の「現水門の存在が継承」というのは、現水門の存在そのものが継承できるよというのは無理だと思うので、存在感やイメージの継承ということがわかるように日本語の修正をしたほうが良い。
- P30のところでボリュームの低減とあるが、「安全安心が最優先」という制限のもとで、ボリュームを低減しているのがわかるようにしたほうが良い。
- P29,P30に本日出た意見を踏まえて修正し、後日、各委員に確認していただいて、答申としたい。
- 答申をもとに今後木津川水門の詳細設計を進めていただくことになるが、次回以降の本部会において、木津川水門の景観検討内容については説明・報告いただきたい。